



## 最近のベトナム事情



当金庫は、ベトナム投資開発銀行と業務提携を結び、お取引先企業のベトナムでの事業展開をサポートしております。今回のミニトークは、最近のベトナム事情を、現地に派遣している職員よりお伝えします。

### ベトナムの経済動向

ベトナム経済は急速な成長を遂げています。アジア開発銀行（ADB）が発表した「アジア経済見通し（2024年4月版）」によると、ベトナムの経済成長率は東南アジア諸国で最も高く、2024年で6.0%、2025年では6.2%と予測しています。

成長を牽引しているのは輸出産業であり、特に電子機器や繊維製品、農産物が主な輸出品となっています。また、中間層の所得増加が、国内の消費市場の拡大を後押ししています。政府は、外国直接投資（FDI）を奨励する政策を打ち出しており、海外からのインフラ整備への投資が経済成長を支える大きな要因となっています。

### ベトナムの生活・物価

ベトナムの気候は日本と異なり、年間を通じて温暖な日が続きます。特に、南部のホーチミンでは高温多湿が続くため、半袖や薄手の服装が一般的です。

食文化は多様で、フォーやバインミーなどはベトナムならではの料理です。ベトナム料理は野菜やハーブを多用することも特徴のひとつです。

また、生活必需品やサービスの価格は日本と比べて非常に安く、例えば、ベトナムでの一般的な食料品や日用品の価格は、日本の約半分から3分の1程度となっています。

食料品や日用品が安く手に入る一方で、輸入品は日本と同程度かそれ以上の価格のものもあります。55インチテレビの価格は日本円換算で約19万円程度するなど、家電製品は輸入関税や物流コストの影響で高価な買い物となっており、庶民には手を出しづらい感があります。



【ベトナム料理：フォー】

経済成長に伴い、都市部の不動産価格も高騰しています。ホーチミン中心部の賃貸マンションの家賃相場は、一月当たり2LDKで約23~35万円であり、東京都23区内の相場（約23~40万円）と同程度まで上昇しています。輸入品や都市部の不動産については、必ずしも安価とは言えないのが実状です。

また、ベトナムには、多くの日系企業が進出を果たしていますが、特に小売業は活況を呈しています。イオンモール、ファミリーマート、ユニクロなどはベトナムの生活に浸透しており、日系企業の品質とサービスを提供することで人気を博しています。

物価参考[ベトナム通貨: VND(ベトナムドン)]		
飲料水(500ml)	5,300VND	31円
コーラ(390ml)	7,800VND	45円
フランスパン(1本)	12,000VND	70円
缶ビール	15,000VND	87円
映画	100,000VND	580円

(1VND=0.0058円換算)



### ベトナムの交通事情

都市部ではバイクが主な移動手段となっており、ホーチミンやハノイでは道路がバイクで埋め尽くされる光景が日常的に見られます。バイクは当初、渋滞を回避するための有効な手段として利用されてきましたが、あまりにも急速な普及により、今では交通渋滞の要因となっています。これと比例して、交通事故も多発しており、バイク利用者の交通マナーも問題視されています。

また、近年では「Grab（Grab）」と言われる配車アプリの利用が、若者を中心に急増しています。このアプリは、スマートフォンから簡単に利用ことができ、目的地を入力すると現在地付近のドライバーから連絡が入り、目的地まで運んでくれます。料金は明確に表示され、支払いはキャッシュレスで行えるため、利用者にとって非常に便利な仕組みといえます。



【ホーチミン市内のバイク渋滞】

ベトナムへの派遣を通じ、経済成長とそれに伴う変化を実感しています。生活事情や文化の違い等に戸惑うこともありますが、現地の活力に触れることで、あらためてベトナムに対する日系企業の高い貢献度を再認識しました。今後も、日本とベトナムが、あらゆる場面での相互交流が図られることで、さらに関係性が深化することを願っています。

岐阜信用金庫 市場国際部  
ベトナム投資開発銀行派遣 福島 拓也